

【第2編 金融 4-3】為替と物価の関係性

為替の仕組みと役割 そもそも日本円は高いのか？安いのか？

■為替と物価はとても密接な関係にある

(1)インフレ

→物価上昇

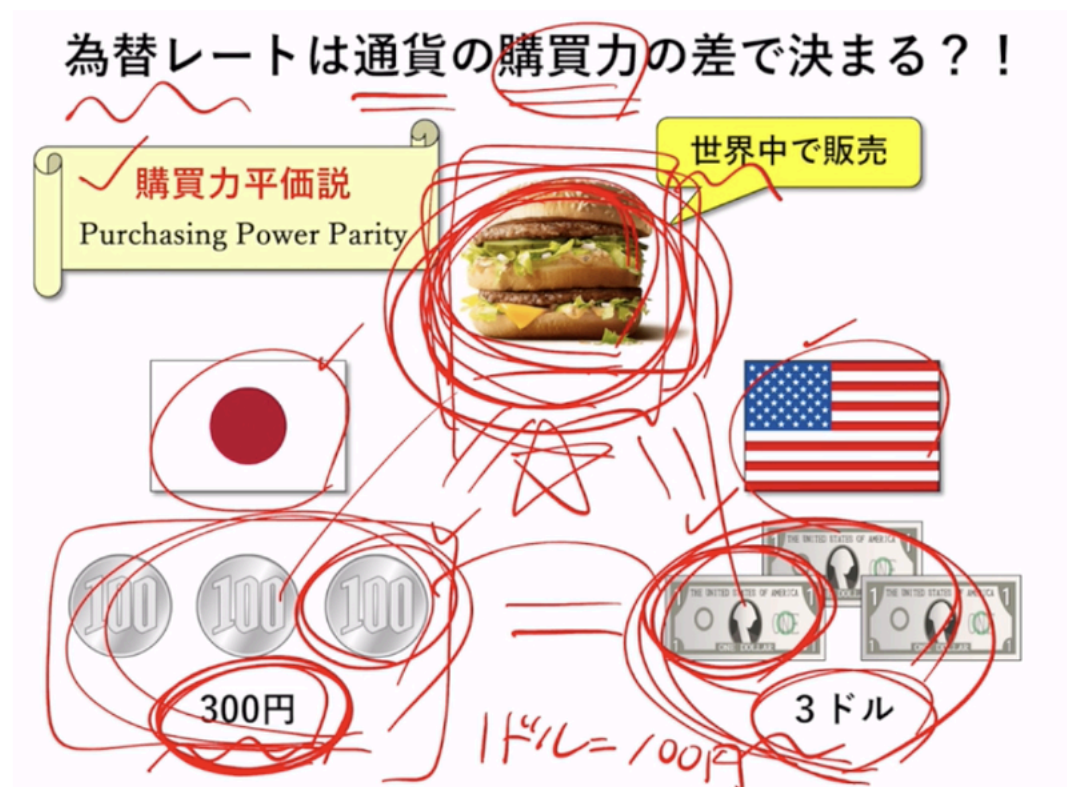
→通貨安（購買力が低い）

(2)購買力平価説

2つの通貨の交換比率は、自国通貨と外国通貨の購買力の比率によって考えることができるという説

①ビッグマック指数

世界中のマクドナルドで売られているビッグマックの販売価格を用いて、各国の外国為替レートや物価水準を割り出す目的で用いられる経済指標



②日本円は日米の物価の差を考慮すると安すぎる (2022年5月時点)

→何故か? その理由は (3) 以下に

(3)実質為替レート

→2つの国における物価の差を加味した為替レート



図を見ると日本円の対ドルにおける実質為替レートは名目為替レートに比べ、より安い（円安）ことがわかる

→図の期間（1995年～2022年2月）、米国の物価が日本の物価に比べ大きく上昇した

ということ

(4)実質実効為替レート

①2 カ国間の物価差を加味する実質レートについて、
貿易関係のある複数の国で全体的に捉えて、総合的に算出された為替レートのこと

→つまり、多数の通貨と比較した場合のその通貨の実力

②アメリカ財務省『為替報告書』

→日本の実質実効レートは、過去 20 年の平均より 25%近く低い！



名目実効為替レートと実質実効為替レート

1995年4月 = 100

	1995年4月	2022年2月	(変化率)
日本円 名目実効為替レート	100	84.7	▲15.3%
日本円 実質実効為替レート	100	44.1	▲55.9%

	1995年4月	2022年2月	(変化率)
外国の物価水準	100	196.1	+96.1%
日本の物価水準	100	104.5	+4.5%

ニッセイ基礎研究所がまとめたデータに基づき作成
「外国の物価水準」は、BISが公表する各国のCPIを日本の貿易シェアで按分して算出したものである

(5) 日本円がまだまだ安すぎる原因

① 大規模な金融緩和政策

→ 日銀によるインフレ・円安政策が長く続いている

→ 過剰な通貨供給量を背景に、日本円の価値が落ち込む

② 世界的な投資ブーム

→ アメリカやヨーロッパの景気回復

→ 先進国の金融緩和によって、新興国にも投資マネーが流入

→ 低金利である日本円による資金調達（キャリートレード）

→ 円売りドル買いを行うと円安ドル高になる